

## 第6回秋葉山再生連絡会議 会議録(要旨)

●日時: 令和7年3月4日(火)午後1時30分～2時45分

●場所: シェルターなんようホール練習室1

●出席者11人 ・山形大学 ・米沢地方森林組合  
・山形県置賜総合支庁: 森林整備課、河川砂防課  
・南陽市: 建設課、商工観光課、財政課、農林課

1開会(13:30)

進行:南陽市農林課長補佐

2挨拶 農林課長

大船渡の山林火災2500ha 昨日から400ha 拡大中。1名が亡くなり、多くの方が家屋を失い避難されておりお見舞い申し上げます。本日は、野堀先生から大船渡の林野火災を交えながら山火事全般について講演をいただきます。5月4日の林野火災から1年になるが、これまで再生連絡会議の中で様々な議論し、一定の方向性を示せるところまで来た。関係機関の皆さんから来年度の事業に向けたご意見をいただきたい。

3意見交換 座長:農林課長

①令和6年度の活動状況について(市農林課)

・一年間の活動状況を報告。秋葉山再生連絡会議6回開催、高畠町との合同プロジェクト会議2回開催、合計8回開催し、関係機関の方からご意見をいただき進めて来た。

②課題整理に対する意見等

当面の対応について(市農林課)

・今後の課題として、11月に開催した地権者を含む市民関係者との意見交換において、再造林を目指し行政と一緒に再生を確認。

・①のエリアについては、旧山小屋跡地周辺で、特に焼損が激しく、倒木の危険がある区域であり、市で今春早々に伐倒処分を行い、林野火災が起きた関心を持続してもらうため、令和7年度に市民参加型の植樹事業を予定しているエリア。

・②③については、焼失エリアが拡大しているのか縮小しているのか今春の芽吹きを待つゾーニングを再調整するエリアで、②については、米沢地方森林組合において、国の補助事業、農林中金を活用し、森林再生等の提案をいただいているエリア。③については、今後、より具体的な計画を検証しつつ、国、県、市が地権者と共同して再造林を目指していくエリアと考えておりますので皆様からの意見をいただきたい。

◆置賜総合支庁森林整備課

・5月の芽吹き状況や焼損木の状況を把握した上で進めていく必要があるが、①については現実的に森林への回復が難しいため、山小屋周辺でもあり市民が集まりやすい場所なので植樹祭や森の大切さを伝えるきっかけになるので市民へのPRを行っていただきたい。②の森林組合のエリアの全体的なものと合わせて考えていく。森林整備課としていろいろ調査させていただくのでドローン調査をやらせていただくので森林整備の計画を立てていく方向でいいと思う。

◆置賜総合支庁河川砂防課

・これまで大雨警報後にその都度調査を実施。土砂災害警戒区域に設定されているため、内原沢を中心に現地調査。現在のところ、流域に焼け落ちた堆積厚は2cm程度で焼失灰もなく、大雨後は1cmに締まったが、火災による土砂災害の影響はない。雪解け後の状況を再確認予定。来年度も引き続き調査を実施していく。

◆米沢地方森林組合

・秋葉山の森林再生については、農林中央金庫の農中森力基金事業(R7～8年)に応募しており、令和7年度事業分の採択について内々に内定の連絡を受けたところ。(プレスリリースはこれから)

・令和7年度は②エリア内の所有者の所有界の割り出し作業、次年度以降、再生事業に向けた伐採や植栽等を行っていくために3つのエリアにゾーニングし実施していきたい。

・「生産林」として、将来にわたり広葉樹林を活用できるようなナラ中心の生産林を作るエリア。「環境林」として、奥地で木材活用が難しい部分については、伐採したものを現地に集積を行うことで、後継樹が育ちやすい環境を作るエリア、「公園林」として、登山道周辺を紅葉する樹種(花木)等を植栽し、見て楽しめるエリアについて、山火事の教訓を活かしながら整備していく。

◆山形大学名誉教授

・5月以降にどういうふうに住仕事をしていったらいいのかを考えてやったほうが良い。現時点で①②③の範囲区分に対して、1筆毎に所有者が異なっている民有林と共有林の部分がオーバーラップしているのか気になる。

- ・5月の新芽が芽吹きのと確認のポイント。時に何に注目したら良いのか考えておく必要がある。会議の中でも出てくると思うので箇条書きにしておいてチェックするポイント現地確認し確かめていく作戦が必要。
- ・森林整備課のドローン映像について、再生連絡会議に非常に活かされているので、次年度のドローン画像に期待している。

#### ◇市農林課

- ・地権者の境界については、③は共有林一筆。②の多くは宮内財産区の所有地が多いが、西側部分について個人所有も見られるため、境界の確認の仕方について森林組合と市で共同してあたっていく。

#### ◆置賜総合支庁森林整備課(芽吹き確認のポイント)

- ・昨年の芽吹きの時期に発生した火災のため新芽が焼けてしまっている。広葉樹、針葉樹を含めて上層木の被害がどうなっているのか新たな芽吹きでわかる。芽吹いているものは枯れていないだろう。このまま大丈夫だろうと確認できる。芽吹いていない木は枯れている木かもしれないので伐採するのかそのままにするのか検討必要。昨年秋にも確認したが更新がかなり入っていることは間違いないが、一冬超えてみると流されてたり、枯れたりも考えられるので確認して、更新状況がうまく運んでいるのか確認する必要がある。

#### ◆山形大学名誉教授

- ・ドローン撮影についてはオルソ毎に撮っていく他に、水平方向を見て下から上に撮っていき、新芽があるか、サンプル木を選定し、その木の状況を確認したほうが良い。
- ・枯れているのかどうかは新芽が出ればわかるということは分かるが、その新芽が健全な芽なのかは、ドローンを2～3m離れて垂直方向に移動しながら撮っていくと詳細にわかると思う。ドローンの撮影の仕方は着眼点のひとつになると考える。

#### ◆山形大学名誉教授

- ・火災から1年経ってみて、完全に燃えてしまっている木と、新芽が出てくる木と、それほど燃えていない木があるわけだが、樹種毎にどういった木が燃えやすかったのか調べておいたほうが良い。
- ・火伏の神社の山頂周辺の杉は、下の方は燃えているが上は燃えていないと思う。ドローンの垂直方向の撮影と同時に撮っておいたほうが良い。
- ・新しく植樹する際に、わざわざ燃えやすい木を増やす必要はないので、燃えにくい木がわかっているならば植栽対象林の候補になるだろう。杉が妥当なのか一回チェックする必要あり。山頂の神社の杉はちゃんと調べたほうが良い

#### ◇市農林課

- ・杉については、山頂の神社周辺や山小屋周辺の祠周辺に見られることから、神社・信仰のための杉なのかなという印象があるので地元の意見を聞きながら検討していく。

◎11月の意見交換会を踏まえて、①については市が早急に危険除去のため伐倒を行い、市で秋口に植栽イベント等を開催するエリア②については森林組合において国、民間の助成事業を活用しながら再生を図っていくエリア③については国、県、市が共同して所有者とともに再造林あるいは自然更新等を促していくエリアとして整理させていただきます。

#### ③モンゴル北部カラマツ林の山火事後のバイオマスの減少について(山形大学名誉教授)

大船渡の林野火災を交えながら山火事全般について講演をいただく。

#### 4その他

市民参加型の植樹事業について

- ・令和7年10月29日(水)午前中を予定しており、企業等の特殊寄附を募りながら検討していく。

5閉会(14:45)